

日本史 B

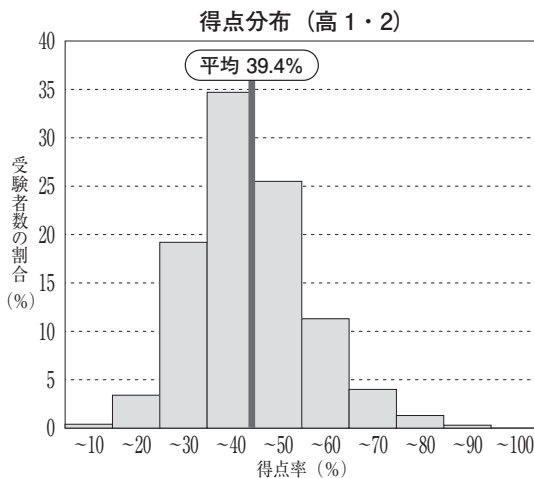
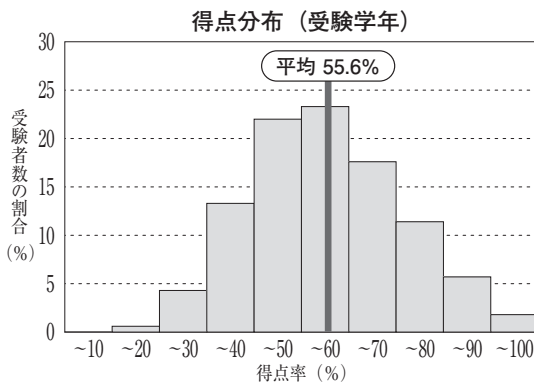
全国の「同志」と共に競い、共に成長していこう！

I. 全体講評

恒例になった東進の「全国統一高校生テスト」に今年も多くの全国の強者が参加した。受験学年のみならず、高校1年生・2年生の「同志」も共に競い、共に成長していこう。

全国統一高校生テスト・日本史 B の受験学年における平均点は 55.6 点と、前回の数字 (54.8) をわずかではあるが上回る結果となった。センター本試・日本史 B でも定番となっている、地図問題やグラフ問題にもしっかり対応できていた。その一方で、政治・経済・文化などの主要テーマを同一問題に混合している問題や、近現代経済史に関する問題には「脆さ」があった。言うまでもなく、弱点の克服なくして高得点は望めない。今回の結果からみずからの補強ポイントはどこなのかを、具体的・客観的に分析してみよう。

なお、大問別の分析については受験学年の結果を基に行う。



II. 大問別分析

■各学年の平均点、大問ごとの得点率

学年	平均点	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	第6問
高1	38.6点	52.4%	37.4%	36.6%	37.8%	35.3%	33.8%
高2	39.5点	53.3%	48.0%	38.0%	35.0%	33.8%	31.4%
受験学年	55.6点	68.1%	69.4%	51.4%	52.9%	48.1%	46.3%
全員	51.5点	64.3%	63.7%	48.0%	48.4%	44.5%	42.6%

第1問 音楽の歴史

人の歩みにより歴史を刻んだ「音楽」に対する関心を深めよう！

「音楽」の歴史を会話形式で取り上げた。それぞれ分野には必ず人の歩みにより刻まれた歴史が存在する。身近なものから歴史を考察する習慣をつけていこう。

第1問の得点率は68.1%と6割後半を確保した好結果であった。問1～問4は7割台から9割台にのぼる正答率を確保し、習熟度の深さを感じることができた。一方、問5は47.2%、問6は48.9%とやや失速した。いずれも近現代史を中心とした文化史であり、受験者にとっては盲点となっている分野であった。常に本番を意識し、網羅性を重視した学習を遂行しよう。

第2問 原始・古代の社会・経済

遺物・遺構から当時の社会や文化の特徴を分析する洞察力を養おう！

原始・古代の社会と経済を中心に出题した。とくに原始時代は発掘により発見された遺物・遺構から史実が解明される。図版集などの視覚教材を常に確認することで理解を深めていこう。

第2問の得点率は69.4%と7割に迫る勢いであった。問2の史料問題は87.3%、問3の古墳文化に関する問題は82.1%と高い正答率を確保することができた。問6は第2問で唯一5割を下回った結果に終わった。受験生が苦手とする土地制度をテーマとした内容であった。テーマ史としての学習で「タテ」の流れを意識することで、土地制度の変遷について理解していこう。

第3問 中世の対外関係

史実がおこった場所は随時、地図によりその位置を確認していこう！

水中考古学を紹介しつつ、中世の対外関係を中心とする基本的知識を問うた。対外関係にはつきものである「地図」問題については、随時重要な事件の位置を確実に把握しておこう。

第3問の得点率は51.4%と辛うじて5割は確保できたが、第1問・第2問と比較するとやや伸び悩んだ。全体的に受験者の解答が分散する傾向にあり、正誤判定に戸惑った印象だ。問5の地図問題の正答率は52.8%であったが、誤答①を選択した

受験者が41.0%に及んだ。問6に至っては誤答を選択した受験者が正答を選択した受験者を上回る結果となった。解答解説を熟読しながら、正確な知識を身につけよう。

第4問 近世の政治・外交

周辺地域との関係から日本の歴史を考察しようとする近年の研究動向に注目しよう！

近世の政治と外交を中心に出题した。近年、周辺地域との関わりから日本史を考察しようとする動きが強まっている。最新の研究動向に注目することで、違う側面から歴史を俯瞰する習慣を身につけよう。

第4問の得点率は52.9%と、第3問とほぼ同水準であった。ある出来事と関係の深い人物を選択させた問2は83.3%と8割を突破した。しかし、問3・問6はそれぞれ20.5%、35.6%と低調な結果に終わった。欠落していた知識がないか詳細に点検し、習得した知識をフルに動員することで得点力の向上をはかっていこう。

第5問 幕末・明治期の民衆の騒擾

数値と史実を合致させるグラフを使用した問題にもしっかり対応できるようになろう！

幕末・明治期の民衆の騒擾を取り上げた。センター本試・日本史Bではグラフの数値と史実を合致させる問題は頻出である。しっかり対応できるように対策を怠らないようにしよう。

第5問の得点率は48.1%と5割を確保することができなかった。その要因は、近代の経済史が絡んだ問2と、「戊申詔書」の時期を判断させた問4が、それぞれ47.1%、26.7%と失速したことにある。問3のグラフの読み取り問題は、正答率が56.8%と及第点を与えることができよう。苦手な分野の克服に留意し計画的な学習をこころがけよう。

第6問 近現代のスタジアム

身近なテーマに興味・関心をもって、学力の向上をはかっていこう！

近年のセンター本試・日本史Bでは身近なテーマを切り口にして基本・標準的な史実を問う傾向がある。その傾向を踏まえ、「近現代のスタジアム」をテーマに取り上げた。

第6問の得点率は46.3%と5割には満たなかつ

たが、これまでは概ね3割であったことを考えれば、本気度を垣間見ることができた。問1の正答率は61.5%と6割を超え、問5と問7の占領期や55年体制をテーマとした問題もそれぞれ50.9%、58.2%と大きく崩れることはなかった。今後も1990年代までの歴史を視野に入れ、学習を繰り返すことによって揺るぎない実力を養成していこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ

この秋から冬にかけて、受験生が一番伸びる時期である。これまで養ってきた基礎力に、いかなる問題にも対応できる応用力を身につけていこう。応用力を身につけるための一つの手段として、センター本試・日本史Bの過去問を繰り返し解くことを推奨したい。過去問を繰り返していると、正誤問題の「誤文」にはある一定の法則があることに気づくだろう。「誤」の箇所はどこに設定されるのか、といったデータを自己採点后に分析してみよう。作題者はやみくもに誤文を作成しているわけではなく、受験生が総合的に「日本の歴史」を深く理解しているのかを試しているのである。以下、問われるポイントについて列記しておくので参考にしてほしい。

- ①設問の出来事に関与した「人物」を正しく理解しているか。
- ②出来事がおこった「時期」について正しく理解しているか。
- ③出来事がおこった「場所」を正しく理解しているか。
- ④出来事がおこった「背景（要因）」やそれが時代（社会）に与えた「影響（結果）」について正しく理解しているか。
- ⑤設問と関係するテーマにおける「相違点」について時代を俯瞰して理解できているか。

受験生には一層の奮起を期待したい。

◆これから本格的な受験勉強に取り組む人へ

数多くの「強者」受験生が参加するこの「全国統一高校生テスト」を受けたときのモチベーションを維持することが何よりも大切だ。将来性のある君たちにはとにかく「勉強」してほしい。先人の歩みを学ぶことは、君自身の人生の羅針盤となるはずだ。日本を、世界を、より良くしていくのだといった大

きな志をもって勉強してほしい。そう、今後の日本を、世界を、君たちが創造していくのである。

- なすべきことをなそうと決心せよ。
 いったん決心したことは必ず実行へ移せ。 —
 小林一三